

荻生徂徠著『琴学大意抄』翻刻

〔解題〕

『琴学大意抄』は、江戸時代の漢学者荻生徂徠（一六六六～一七二八）が物部茂卿の名で享保七（一七二二）年に著した琴（きん）の解説書である。琴（きん）は奈良、平安時代前期に流行した七絃の琴で、平安中期以降、奏法が廃れ、実態さえもわからなくなっていたが、江戸時代に儒学者・文人の間で中興した。その中心が荻生徂徎で、彼は堂上楽家の柏氏の秘伝であった世界最古の七絃琴文字譜『碣石調幽蘭』を託され、その解説を行ったことでも知られる（註）。本邦初の琴（きん）の解説書として、ここに翻刻し、紹介する。底本・図表は、国立国会図書館蔵本を用いた。なお、静嘉堂文庫本、東北大学図書館蔵狩野文庫本（二種）、国立公文書館蔵本を参照した。

〔凡例〕

一、漢字は、できるかぎり底本の字体を尊重した。

二、濁点は本文にあるものだけに限ってつけた。

三、カタカナの合字「ヰ」は「シテ」、「ヲ」は「コト」に直した。

四、私に句読点を付け、書名は『』、曲名は「」を付した。また、引用文は「」で示した。

五、国会図書館本には書写者の片山賢の私見と覚しき頭注の付いている部分があるが、静嘉堂文庫本、東北大学図書館蔵狩野文庫本などには無いものであり、徂徎の原文の復元という主旨から今回は翻刻の対象にしなかつた。

琴学大意抄目録

た。

川 島 紹 江

| | |
|-------------|------|
| 琴ノ起りノ事 | 初丁 |
| 琴ヲ弾セシ人ノ事 | 三、 |
| 琴ノ匠ノ事 | 五、 |
| 琴ノ名所ノ事 | 六、 |
| 軫ノ事 | 八、 |
| 徽ノ事 | 同 |
| 絃ノ事 | 十、 |
| 琴ノ調様ノ事 | 十一、 |
| 琴七絃十三徽ノ定位ノ事 | 十五、 |
| 三ノ声ノ事 | 二十六、 |
| 指ノ名ノ事 | 同 |
| 右指法ノ事 | 同 |
| 左指法ノ事 | 二十九、 |
| 譜ノ文字ノ事 | 三十、 |
| 琴ノ廢レタル故ノ事 | 三十一、 |

琴学大意抄

琴ノ起リノ事

琴ノ起リハ、『世本』ト云書ニハ、「神農ノ所造」ト云ヘリ。『琴操』ト云書ニハ、「伏羲作琴所^{レル}以修^{レル}身理^{レ性反^ル}其天眞^一」ト云ヘリ。揚雄カ『琴清英』ト云書ニハ、「舜彈^ニ五弦之琴^一而天下化^{堯加^ニ}」^テ二弦^一、以合^ス君臣之恩^ヲ」ト云ヘリ。桓譚カ『新論』ト云書ニハ、「五弦、第一絃為^レ宮。其次商角徵羽。文王・武王、各加^テ二弦^一、以為^レ少宮・少商^一」ト云ヘリ。何レモ『杜氏通典』卷三百四十四ニ見ユ。

琴ノ名義ノ事

『白虎通』ニ曰、「琴禁也。禁止於邪^ヲ以正^{スル}人心^也。」コレハキント云名ヲ付タルコトハ、モト禁スルト云詞ヲ借用テ、名ツケタルト云コトナリ。禁スルト云ハ、邪ヲ禁シテ、人ノ心ヲ正スルト云意ナリ。サレ共コレハ禁^ニ限リタルコトニ非ス。惣シテ樂ノ德ナリ。人ノ邪ヲイマシメ、人ノ心ヲ正クセントシテハ、異見教訓ヲ加へ、或ハ法度刑罰ヲ以テ制スルコトハ、人ノ智慧ノ至リヤスキトコロナリ。サレ共人ノ情ニサカフユヘ、拒ミテ受ケカタク、教化ノ行レサルトコロアリ。故ニ古ノ聖人、樂ト云コトヲ作り出シテ、人ノ心ノ樂ムトコロヨリ、正シキ道ニヒキ入テ、ワレシラス邪ノ技ニイラザルヤウニナシ玉フコト、凡智ノ及ハザルトコロナリ。人ノ心ノ樂ムトコロヨリ導ク時ハ、世コゾリテ玩ヒテ、オノスカラ世ノナラハ、シトナルニヨリテ、其教ヒロクハビコリテ、四海ノ内ニアマネク、天カ下、ミナ其習ハシニヒカレテ、制セザレ共、邪惡ニ移ラザルコト、樂ノ効驗ナリ。サレバ、邪ヲ禁シテ、人ノ心ヲ正シクスルト云コトハ、樂ノ通德ナルヲ、今コノ琴ノ名義ニノミ云ヘルコトハ『風俗通』ニ曰、「琴者樂之統也。君子所^レ常御^ニ不^レ離^ニ於身^ニ」ト云ヘリ。桓譚カ『新論』曰、「八音之中、唯絃音最^為而琴為^ニ之首^ニ」ト云ヘリ。

統ハスブルナリ。最ハスグレタルナリ。首ハカシラナリ。樂ノ起リハ歌ヨリ始マル。金石絲竹ハ、歌ノ声ヲタスクルモノニテ、コレヲ合セテ樂ト云モノニナルナリ。金石絲竹、イツレモ、人ノ声ヲタスクルカ中ニ、トリハキテ人ノ声ニ親シキハ絲ナリ。故ニ八音ノ中、絃^ヲ為^レ最ト云ナリ。絲ヲ堂上ニヨキテ、金石匏竹ヲ堂下ニ陳ヌルモ、絲ヲ貴フカ故ナリ。モロ^々ノ絲ノ中ニハ、琴ハ君ニシテ、瑟ハ臣ナリ。琴ハ夫ニシテ、瑟ハ妻ナリ。今ノ箏ハ瑟ノ遺法ナリ。琵琶ト箜篌トハ、末ノ世ノ物ナリ。琴ハ弦ノ数少クシテシカモ無窮ノ音ヲ發ス。瑟ハ柱ヲ設ルモノナルユヘ、ソノ音、五音七音ニ限ル。合絃ヲ専トスルモノナルユヘ、ソノ琴ニ於ルコト、臣ノ君ヲ輔ケ、妻ノ夫ヲ助ルガコトシ。故ニ琴ヲモロモロノ樂ノ首トシテ、八音ヲ統タリ。古ノ賢聖ノ樂器ヲ玩ヒタマヘルモ、専ラ琴ニトゞマリ、他ニ及フタメシ少シ。琴ノ徳ハカク八音ヲ統フルガユヘニ、邪ヲ禁シテ、人ノ心ヲ正シクスト云ハ、樂ノ通德ナレ共、コトニコレヲ琴ニノミ被^フシメテ、カクイヘルナルヘシ。

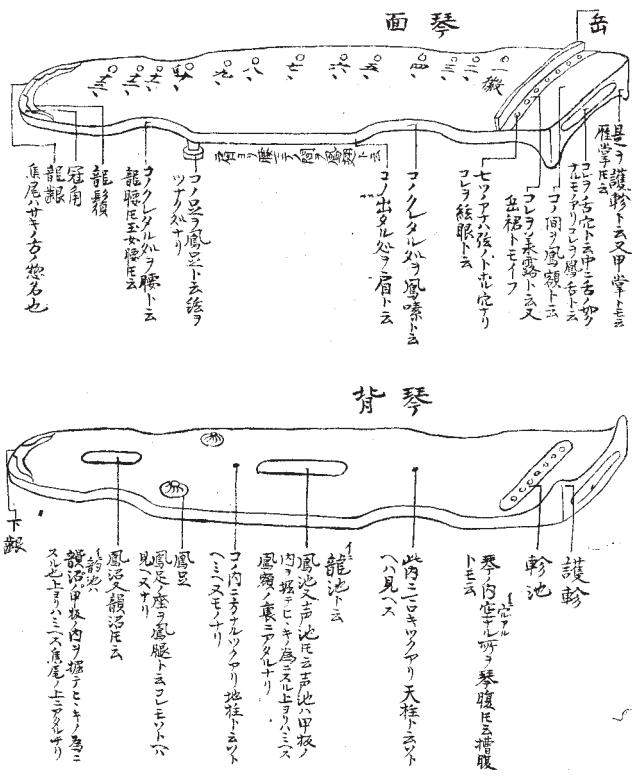
琴ヲ弾セシ人ノ事

古ノ君子ハ、琴瑟身ヲ離サスト云ヘレハ、琴ヲ弾セザル君子ナシ。去レ共其中ニモコトニ傳記ニシルシテ名高キヲイハ、舜ハ五絃ノ琴ヲ弾^{シテ}「南風ノ操」ヲ作ル。文王ハ「拘幽操」ヲ作リ、周公旦ハ「越裳操」ヲ作リ、孔子ハ「將歸操」「搘蘭操^{即幽蘭ナリ}」「龜山操」ヲ作リ玉ヒ、曾子ハ「殘骸操」ヲ作リ、尹伯奇ハ「履霜操」ヲ作ル。瓠巴ハ淵ノ魚ヲ躍ラシメ、晉ノ師曠ハ玄鶴ヲ舞シム。擊磬襄^ハ孔子ノ琴ノ師ナリ。師文ハ襄カ弟子ナリ。方子春ハ成連ニ授ケ、成連ハ伯牙ニ傳フ。大遊小遊長側短側ト云琴曲ハ、長沮桀溺カ遺操ナリ。今樂ニ遊声ト云コトアルモ漢ノ世ニハ、渤海ノ趙定、梁國ノ龍德、司馬相如、卓文君^母・劉安世・趙飛燕・梁伯鸞・鄭子真・楊雄・嚴子陵・桓譚・班固・仲長統・馬融・蔡邕^子・ソノ女蔡琰、魏晉六朝ニ降リテ、諸葛孔明・顧元歎・大遊小遊ヨリ出タルナルベシ漢ノ世ニハ、渤海ノ趙定、梁國ノ龍德、司馬相如、卓文君^母・劉安世・趙飛燕・梁伯鸞・鄭子真・楊雄・嚴子陵・桓譚・班固・仲長統・馬融・蔡邕^子・ソノ女蔡琰、魏晉六朝ニ降リテ、諸葛孔明・顧元歎・曹子達^建・阮瑀・嵇康・阮瞻・劉琨・戴安道・許玄度・宗少文・蕭思話・柳世隆・王僧虔・褚淵・柳惲^諱・陳仲孺・隋唐ニハ趙耶利・王績・呂才・王維・李白・李龜年・白樂天・宋ノ歐陽永叔、コレ皆イチシルキモノナリ。

琴匠ノ事

古、蔡邕柯亭ノ椽ノ竹ヲ又キテ笛ヲ作、爨下ノタキサシノ桐ヲ以テ琴ヲ作ル。末ノ方ニ焦シタル痕ノコリタレハ、コレヲ焦尾ト名ツクルト云ヘリ。其道ニ精シキ人ハ皆、ヨク其器ヲ作レルニヤ。琴匠ノ名キコヘズ。唐ノ世ニ至リテ、雷威・雷霄・雷盛・雷珏・雷文・雷迅、代々ソノ名ヲ擅ニス。後世ニ至リテモ雷琴ト云テ、重キ宝トルコトナリ。琴ノ打ヤウモ雷氏カ法ノ秘訣ニスルナリ。コノ外ニ唐ニ、郭亮・沈鎬・張鍼金・儒僧ノ三彗アリ。宋ニハ蔡膺・朱仁霄・衛忠正・趙仁濟・馬希仁・馬希元・金淵・金公路・陳亨^亨・道馬大夫梅四・龔老・林泉。元ニハ嚴古清・絕溪雲・絕谷雲・絕牧州・皆琴匠ノ名ヲ得タルナリ。總テ、古琴ニハ断紋ト云モノアリ。五百年ヲ経サレハ、断紋ハナキトナリ。断紋ニ色々アリ。マヅ蛇腹断ト云アリ。間一寸モ、二寸モオキテ、横ニ蛇バラノヤウニ、ヒシト漆ノキレメアリ。是ヲ蛇腹断ト云。又牛毛断ト云アリ。細紋断共イフ。髪ノ毛スヂノゴトク、ミゴトニヒシトキレテアルナリ。大カタハ、細紋断ハ琴ノイソニキル、モノナリトイヘリ。又梅花断ト云テ、梅花ノ如クニキレテ紋ノアルアリ。千年ニ餘ル琴ニ非レバ、梅花断ハナキト云ヘリ。故ニ梅花断ヲ上品トシ、牛尾断ハソレニ次キ、蛇腹断ハ又ソノ次ナリ。一切ノ塗物ニ断紋ハナキコトナルニ、琴ニノミアルコトハ、琴ヲ塗ルニハ音ニ碍ルユヘ、布ヲキセヌナリ。ソノウヘ日夜ニ絃ニウタル、ユヘ、年久ケレハ、自然ト出来ルトナリ。コレニヨリテ、断紋アル琴ヲ重ンスルコト也。サレ共、偽断紋トテ、細工人ノニセテ断紋ヲ作ルコトアリ。真ノ断紋ハ創鋒ノ如シト云ヘリ。ソノウヘ、ニセタルハ、手ニテスレハ断紋イヨヘ、一段ヨク見ユ。マコトノ断紋ハ目ニハ見ユレ共、拭ヘハ、ナクナリ、上(ノ)漆ニテヌレハ、紋イヨヘ見ユトイヘリ。

琴ノ名所右ノ如シ。琴ノ長サ三尺九寸一分、今ノ尺ニナホシテ、二尺八寸二分五厘也。岳ヨリ竜齶マテノ間三尺六寸今ノ尺ニシテ、二尺五寸九分二厘ナリ。サレ共コレハタイガイノカツコウヲ音タルコトニテ、古今ノ名琴、長短サマ々アリト見ヘタリ。「幽蘭」ノ譜ヲ考レハコトノ外ニ短キヤウナリ。ヒツキヤウ琴ノ律ハ絃ノフトサ、ホソサニテ、ワカル、コトニテ、アナカチニ長短ニハヨラヌコトナレ共、タイカイノカツカウアルベキナリ。板ノアツサナド、琴面モ琴背モ、所々ニテ皆カハレリ。『琴経』ニ雷家ノ法ヲノセタリ。委細ナルコトナリ。



琴ノ軫ト云モノ、七ツアリ。七ツノ絃ニヒトツツ、ツクルナリ。カクノコト
キノ形ナリ。緘扣トテ、ネリグリヲ此図ノ如ク、ヨコ穴ヨリ
引出シテトムルナリ。絃ノサキヲ、繩頭トテ、トンボウニ結
ヒテ引カケ置ナリ。サテ絃ヲ軫池ノ方ヨリ絃眼ヲ引トホシテ、
岳ヲ越ヘ琴面ヲワタシ、竜齧ヨリ琴背ヘマワン、ツヨクシメ
テ、鳳足ニテトムルナリ。サレハ、七ツノ軫、共ニ皆軫池ノ内ニオサマリサ
ガリテアルナリ。此軫ヲ右ヘヒネレハ、絃シマリ、左ヘヒネレハ、絃ユルマ
ル。絃ノシメユルベノ為ニコノ軫ト云モノヲコシラヘタルナリ。琵琶ノ轉手
モコレニモトツケリ。世俗ニテンシント云ヘルモ、アヤマリニハ非ス。コノ
軫ノ字ナルヘシ。

徽ノ事

徽ハ、琴ノオシトコロヲ知セン為ニ、設タルモノナリ。モト暉ノ字ヲ用ユ。
暉ハ、ヒカルトヨム。金玉、或、螺蚌ノルイニテスルハ、光アリテ、押処ノ
目シルシニナサン為也。後ニハ、専ラ徽ノ字ヲ用ユ。音同シキカ故ナリ。絃
ノ数ハ七ツナレ共、押処、ソレヽニシナアルユヘ、無辺ノ声ヲ発スルコト、
徽ノ徳也。徽ノ置ヤウハ、『琴經』ニ見ユ。マツ、岳ヨリ竜齧マテ間ノ寸ヲ
トリテ、ソレヲ二ツニ折テ、七徽ヲオク也。又七徽ヨリ岳マテノ間ヲ二ツニ
折テ、四ノ徽ヲオク。又四ノ徽ヨリ岳マテノ間ヲ二ツニ折テ、一徽ヲオク也。
故ニ、一ノ徽、四ノ徽、七ノ徽ハ、散絃ト同律ナリ。サテ、岳ヨリ一ノ徽マ
テノ間ノ長サヲ、三ニ分テ、ソノ一ツノ長ヲ以テ、一ノ徽ヨリ左ノ方ヲハカ
リテ、ソノハツレニ、二ノ徽ヲオク。又、岳ヨリ四徽マテノ長サヲ五ツニワ
ケイテ、四ツヲステ、其一つ分ノ長ヲ以テ、四ノ徽ヨリ右ノ方ヘトリ、ソノハ
ブレニ、三ノ徽ヲオク。又、岳ヨリ四ノ徽マテノ長サヲ、三ツニワリテ、其
一つ分ノ長サヲ以テ、四ノ徽ヨリ左ノ方ヘトリ、ソノハツレニ五ノ徽ヲオク。
又ソノ長サヲ五ツニ分ケテ、其四分ノ長サヲ以テ、五ノ徽ヨリ左ヘハカリテ、

六徽ヲオク。七徽ヲ中徽ト云。又君徽共云。一・二・三・四・五・六ノ徽ヲ
前徽ト云。八・九・十・十一・十二・十三ノ徽ヲ下徽ト云。七徽ヨリ右ノ前
徽ノアリトコロヲ、左ヘ折返シテ、ソレヽノ徽ノ処ニ合セテ、徽ヲオケバ、
ハノ徽ヨリ木ハ出来ルナリ。『琴經』ノ説、カクノコトシ。コレハ三分損益
ノ法ヲ以、定メタルモノ也。三分損益ト云コトモ、モト大概ニ云ヘルコトテ、
徽細ノ処ハ耳ヲ以テ定ムルコト也。故ニ、徽ヲオクコトモ琴匠ノ上手ハ、絃
ヲカケテ、耳ヲ以テ処ヲ定ムルナルヘシ。尤、岳ト竜齧ニ、少モ高卑アルカ、
又、琴面ノシヽオ^{ヨホイ}キニヨリテ、律ノ違アルヘキコトナリ。

絃ノ事

琴絃ハ拓蚕絲ヲ上トス、ト云ヘリ。生操トテ、ネラサル繭ヲ用ルヨシナリ。
七絃ノ名、第一ノ絃ヲ宮絃ト云。第二ヲ商絃ト云。第三ヲ角絃ト云。第四ヲ
徵絃ト云。第五ヲ羽絃ト云。第六ヲ文絃ト云、又少宮絃共云フ。第七ヲ武絃
ト云、又少商絃共イフ。箏ナトハ柱ヲ立テ、絃ニ長短ヲコシラヘ、長短ヨリ
律ヲ生スルユヘ、絃ノフトサ、ホソサハ、サノミカマハヌコトニテ、只音ノ
フトサ、ホソサアラゼン為ナレハ、一絃々々ニカハリメハナキナリ。琴ト琵
琶ハ専ラ絃ノフトサ、ホソサヲ以テ、律ヲ生スルコトナルユヘ、一絃々々ニ
フトサ、ホソサハ、カハルコトナリ。其法、『琴經』ニ「宮絃ハ二百四十編、
商絃・徵絃は、二百六編、角絃・羽絃ハ百七十二編、文絃ハ百三十八編、武
絃ハ百四編也。サテ、宮絃・商絃・角絃ニハ、纏絲ト云コトヲスル也。纏絲
トハ、琴絃ヲトクトヨリ出シ置テ、其後、別ノイトヲ以テ、出来タル絃ノ上
ヲ、横ニマクコト也。纏絲ハ、イツレモ絲十七編ヲ用ル」トアリ。綸ト云ハ、
繭ヨリ、イトヲヒトスザ引出シタルヲ絲ト云。此絲ヲ十一合セタルヲ一編ト
スルコトナリ。サテ、絃ノ長サハ六尺ナリ。秋分ノ時分、桂花ノサク頃ニ、
細雨ノフル日、絲ヲヨルベシト云ヘリ。絃十筋分、長六尺ヲヒトツ管ニマキ
テヤキモノ、鍋ニテネル也。ソノトキ薬方アリ。魚膠ト云物アリ。魚ノニベ
也。重サ五十目。蠟五錢。白芨ヘギテ五錢。桑白皮、長サ一寸ホドヅ、ニ切
テ、十錢。天門冬ノ根十個キリワルベシ。小麦五勺ホド、コレヲ絃トヒトツ
ニ鍋ニ入テ、煮テ、小麦ノニエタルヲ度ニシテ取出シ、冷水ニテ浸シ、急ニ

日ニアテ、ホスト云リ。イカニアルコトナラン。試ミサレハシラズ。古ヨリ琴絃ヲハ、氷絃ト云テ、氷ノ如クスキトウルモノナル由也。

琴ノ調様ノ事

琴ノ調ニ五調アリ。瑟調・平調・清調・楚調・側調ノ五ツ也。瑟調・清調・平調ヲ三調トシ、楚調・側調ヲ加ヘテ、五調ナリ。漢ノ代ヨリ、六朝マテハ、琴ノミニ限ラズ、樂、ミナコノ五調ノ外ニ出ズ。後魏ノ陳仲儒カ曰、「^瑟琴調ハ以レ宮為主。清調ハ以商為主。平調ハ以角為主」ト云リ。五音六律ハ、ミナ、黃鐘ヲ根本トス。黃鐘ハ今ノワウンキ也。^(コノコト別ニ考アリ。ナガケレバコ、ニシルサズ)ワウシキハ、十二律ノ根本ナルユヘ、ワウシキニ當ルコトヲ、主トスト云ル也。瑟調ハワウシキヲ宮ニシタルモノナルユヘ、以宮主ト云リ。今ノ黃鐘調ナリ。清調ハ黃鐘ヲ商ニシタルモノナルユヘ、以商為主トイヘリ。今ノ双調ナリ。平調ハ黃シキヲ角ニシタルモノナルユヘ、以角為主トイヘリ。即、今ノ平調ナリ。楚調・側調ハ、今ノ一越調・般涉調ナルベケレ共、明文ナケレハ、何レガ何ナルコトヲシラズ。『通典』ニ曰、「平調・清調・瑟調、皆、周ノ房中ノ遺声也。漢代、謂之三調」ト云リ。房中ノ声トハ、周南・召南ノ樂ノコトナリ。サレバ漢・六朝ニ限ラズ、古三代ノ樂共、三調・五調ノ外ニ出ズ」ト見ヘタリ。『韓詩外傳』ニ、宮・商・角・徵・羽ノ五音ヲ聞テ、ソレノノ徳アルコトヲ云リ。宮・商・角・徵・羽ハ何レノ曲ニモ皆アルコトナルニ、カクイヘルコトハ、宮・角・商・徵・羽ノ五調ノコトナルコト明カ也。古ヨリ、皆カ・ルコトナリシニ、晋ノ代ノ末ニ五胡ノ乱出来テ、夷狄ノ音曲、中国ニ入り、ママノノ異ナル調ノ樂共、世ニヨコナハレタリ。コレニヨリテ、陳仲儒カ説モ、後魏ノ世ニ用ラレス、隋ノ世ニ至テ、又、万宝常ト云モノ、西域ノ樂ヲ傳テ、旋宮ト云コトヲトリタテ、八十四調ノ樂ヲ作ル。唐ノ代モコレニ從ケルヨリ、五調ノコト世ニ聞ヘズ、宋ノ代ノ蔡西山、『律呂新書』ヲ作テ、八十四調ノ説ヲ用タルナリ。蔡西山ハ朱子ノ門人ニテ、朱子ノ学流世ニ盛ニ行ハレタルユヘ、明朝ニ至ルマテ、八十四調ノ説、世ノ定論トナレリ。旋宮ノコトハ、『禮記』ニ出テ、聖人ノ世ニモ、鬼神ヲ祭ルニハ異ナル調モアルコトナレ共、平生ノ樂ニ、イカデカカ・ル繁多ナルコトノア

ルベキ。吾邦ハ南朝ヨリ傳來シテ、今ノ世マテモ五調トノミ習來ルハ、古三代ノ遺音ナリト知ルベシ。今傳ハレル諸ノ樂曲ニモ、南朝ヨリ傳ヘタルヲ、古樂トシ、唐朝ヨリ傳ヘタルヲ、新樂ト習ヒ來ルモ、漢魏六朝ノ遺音、吾邦ニ残レル証ナリ。サテ又、琴ノ調ヘニ至テハ、吾調ヲイカニ調フルト云コト、古ノ書ニタシカナルコト見ヘス。『釋編』及『頌宮禮樂疏』ナトニ、琴家ノ説ヲノセタリ。正宮調・縵角調・緊羽調・縵宮調・清商調コレナリ。正宮調ト云ハ、宮絃、黃鐘。商絃、般涉。角絃、一越。徵絃、平調。羽絃、下無。文絃、黃鐘ノ甲。武絃、般涉ノ甲ナリ。縵角調ト云ハ正宮調ノ如ニシテ、角絃ヲ一律下ケテ、上無ニシタルナリ。縵宮調ハ縵角調ノ如クニシテ、宮絃ヲ又一律下ケテ鳴鐘ニスルナリ。緊羽調ト云、正宮調ノ如ニシテ、羽絃ヲ一律上ケテ、双調ニスルナリ。清商調ト云ハ、緊羽調ノ如ニシテ、商絃ヲ一律上ケテ、神仙ニスルナリ。サレハ正宮調ハ、一越ヨリ調ト起シテ、黃・平、下ナリ。歌調、奏調ト云コトアリテ、順ハ逆六ニ合スル時、今ノ黃鐘調、即、古ノ瑟調ノ縵角調ハ、黃鐘ヨリ調ヲ起シテ、黃・平・般・下・上ナリ。順ハ逆六ニテ合スル時、今ノ平調、即、古モ平調ト云。緊羽調ハ双調ヨリ調ヲ起シテ、双・越・黃・平・般也。順ハ逆六ニテ合スル時、今ノ一越調、古ノ楚調ナルベシ。清商調ハ神仙ヨリ調ヲ起シテ、神・双・越・黃・平、順ハ逆六ニテ合スル時、今ノ双調古ノ清調ナリ。縵宮調ハ平調ヨリ調ヲ起シテ、平・般・下・上・龜、順ハ逆六ヲ以テ合スル時、今ノ般涉調、古ノ側調ナルベシ。サレバ、琴家ノ五調、今吾邦ニ傳ル五調ト符合シヌレハ、陳仲儒カイヘルモ、漢ノ三調モ、五調モ、『韓詩外傳』ノ五音モ、外ニ、又アルマンキ也。異國ハ唐朝ニ古樂ヲ変乱シタルヨリ、五調ノ説隠レタルニ、吾邦ニ残留マルコト、不思議ノ次第也。琴譜モ明朝ヨリ傳ハルヲ見レハ、音節、短促ニテ、小兒ノ歌ヘル岡崎ナトイフヤウナルモノナルニ、『幽蘭琴譜』ハ廻ニ異ナルヲ以テ見ル時ハ、古ノ樂ハ只吾邦ニ残リ留ヌト覺ユル也。

琴七絃十三徽ノ定位ノ事

一本無二字

正宮調ニシラフル時左ノ如シ

受黄双平越受黄
上受黄下平上受
越神鸞双勝越神
断上受黄下平上受
平越神双平越十
下平越受黄下平九
鳴下平上受黄下八
受黄下平上受黄七
断上鸞鳴勝断上六
下平上受黄下平五
受黄下平上受黄四
上受黄下断上受三
下平上受黄下平二
受黄下平上受黄一

綾角調ニ調ル時左ノ如シ

受黄双平越受黄
上受黄下平上受
越神鸞双勝越神
断上受黄下平上受
平越神双平越十
下平越受黄下平九
鳴下平上受黄下八
受黄下平上受黄七
断上鸞鳴勝断上六
下平上受黄下平五
受黄下平上受黄四
上受黄下断上受三
下平上受黄下平二
受黄双平越受黄一

右ノ通ナリ

綾角調左ノ如シ

受黄双平越受黄
上受黄下平上受
越神鸞双勝断神
断上受黄下平上十
下平断勝平上九
鳴上受黄下平上八
受黄下平上受黄七
断神鸞鳴勝断神六
下平断勝平上五
受黄下平上受黄四
上受黄下断上受三
下平上受黄下平二
受黄下平上受黄一

清商調左ノ如シ

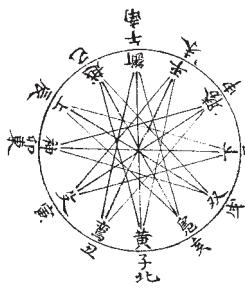
神黄双平越神黄
越受黄双勝断神
断神鸞双勝断神
平上受黄下平上十
勝越神黄双平九
双平越受黄双平八
黄下平上受黄七
神黄双双越神黄
平上受黄下平上六
双下平受黄双平五
神黄双平越神黄
越受黄下平上三
双平越受黄双平一
神黄双平越神黄一

又一流角絃ヲ黄鐘ニ調フル説アリ。コレハ奏調ナリ。古ニ、歌調・奏調ト云コトアリ。歌ト樂ト、別調子ニスルコト也。其故ハ、人声ヲ貴フナリ。和ナリ。人声ヲ貴フト云ハ、歌ハ人ノ声也。諸ノ樂器ハ、金石絲竹匏土革、皆物ノ声也。樂、元來歌ヨリ起ル。諸ノ鳴物ハ、歌ヲ輔ル為也。サレバ人ノ声ハ、本ニシテ、諸ノ樂器ハ未ナリ。諸ノ樂器ト歌ト、同調ナル時ハ、歌ノ声、樂ノ声ニ奪レテ、文句聞ヘカタシ。故ニ歌ト樂トノ調子ヲ別ニシテ、順八逆六ヲ以テ合スルコト、古ノ法ナリ。是ヲ和トイフ也。樂ニ和應ト云コトアリ。應ト云ハ、同声相應スルコトニテ、黃鐘ニ黃鐘ヲ合セ、平調ニ平調ヲ合スルコト也。和ト云ハ黃鐘ニ平調ヲ合セ、平調ニ般涉ヲ合スルコト也。コレ順八逆六ナリ。應ハ人情ニシテ、和ハ道ナリ。故ニ同調ヲ合スル時ハ、人情ニ親

ケレハ、凡、耳ニモ入易キ也。サレ共、世俗ノ箏・三味線ノルイ、道ヲ知ラス。樂ヲ学ハムモノハ、心ヲ用ユレハ、皆ソノ妙ヲ得ルナリ。順八逆六ヲ合スル時ハ、樂ノ道ニシテ、聖人ノ知ニ非レハ、至リカタキトコロナリ。十二律ト云事ノアルモ、順八逆六ニテ、黃・平・般・下・上・鳴・断・鸞・勝・神・双・越ト生シユキテ、十三度目ニハ、モトノ黃鐘ニナルユヘ、音ノ數十二ニキハマリテ、又、外ニナキ道理ニテ、十二律ト定メ玉ヘルナリ。世人、人情ノミニシテ、道ト云モノヲ知ラヌトキハ、我カ氣ニ合タル人ノミヲ用ヒ、我カ好コトノミヲスルニヨリテ、人皆我レ勝ニナリ、禍乱モコレヨリ生ス。聖人ノ道ハ、我ニコトナルモノヲ用ヒテ、我過タルヲ抑ヘ、我足ラサルヲ補フ。コレヲ和ト云也。甘ニ醜ヲ加ヘ、辛ニ酸ヲ加ヘテ、五味ヲ調和スレハ、氣血ヲ養テ、五臟ノ偏勝ナク、病ヲ生セサルコトシ。サレハ賢君ノ諫言ヲ納レ、賢臣ヲ用ヒタマフモ、皆異ナルヲ、以テ、我ヲ助クル道理也。『論語』ニ「君子和而不同、小人同而不和」ト云ルモ、コノ道理ナルコト、『左傳』ニモミヘタリ。左丘明ハ、孔子ニ親タリ、見ヘテ、学タル人ナレハ、ソノ説信用スヘキコト、後世、朱子ナトノ注解ノ比ニハ非ル也。十二律ノ六八ト云モノモ、皆ウラオモテニ相反スルモノ也。タトヘハ、黃鐘ハ子ノ位ニシテ、北方也。北ノ向ヒハ南也。南ハ巳午未ナリ。巳ハ中呂、午ハ蕤賓、未ハ林鐘ナリ。コノ内ニ、午ハ正シク、子ニ打向フユヘニ、君ニ敵討スル臣ノ如ナレハ、和セス。一位進ンテ、未ハ林鐘也。一位退テ、巳ハ中呂ナリ。林鐘ハ順八逆六、中呂ハ逆八順六、是ヲ和ト云ナリ。サレ共、林鐘、中呂、皆、南方ノ位ニシテ、黃鐘ト相反スル也。コノ外、東西ノ位、又ハ黃鐘ノ前後、丑ニ當ル大呂、亥ニ當ル應鐘ニハ、和ハナキナリ。コレ、相反スルモノニナラデハ、和ハナキコト明白也。其外ノ十一律モ、皆カクノ如シ。

マムカヒハ衝ナリ。衝ハ和セズ。和ハ

必衝ノ一位ツヽ、前後ニアルナリ。此



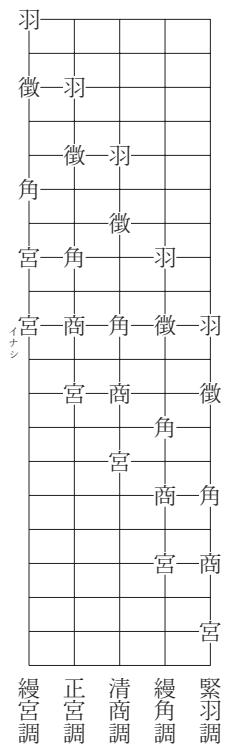
図、朱ハ衝、墨ハ和ナリ。

歌ハ君ニシテ、樂ハ臣ナルユヘ、歌ト樂器トノ調子ヲカヘテ、六八ヲ以て合スルコト、カ、ル道理也。サレハ古ヘヨリ、樂ノ徳ヲハ和ト云フ。世俗ノ箏・三味線ニハ、曾テ、コノ和ト云コトハナキナリ。樂器ハカリノウヘニテモ、笙ノ合竹、箏ノ合絃、皆六八ノ和ニシテ、世俗ノナリモノ、及ハサルトコロ也。笙・笛・簫篥ナトヲ合スルハ、皆、應ナレ共、ソノ内ニモ、六八ノ和ヲ以テ、合セタルトコロ／＼モアルハ、カカルイハレナリ。樂器ノ中ニ琴ハ前ニ云ヘル如ク、樂ノ統、八音ノ首ニテ、コト二人ノ声ニ親シキモノナルユヘ、琴ハカリヲ、歌ト同調ニシテ、弾スルナリ。歌ト樂ト別調ナル時ハ、樂ノ音ニ引立ラレテ、覺ヘス、同調ニ移ルユヘニ、琴ノ声ヲ寄セテ、コレヲ便リニシテ、歌フコトナルヘン。絃ヲコトニ堂上ニオクモ、歌ト同調ナルカ故也。サレハ、歌ノ調子ヲ歌調トシ、樂ノ調子ヲ奏調トシテ、歌、一越調ナレハ、樂ハ黃鐘調。歌、黃鐘調ナレハ、樂ハ平調。歌、平調ナレハ、樂ハ般涉調。歌、双調ナレハ、樂ハ一越調ナリ。コレ、歌調・奏調ノイハレ也。琴ハ歌ト同調ナレハ、モトヨリ、歌調ノミニシテ、奏調ハナキコトナレ共、世、末ニクタルニシタカヒテ、人ノ心卑劣ニナリ、音ノ親シク合セタルヲ、面白ク思ヒテ、六八ヲ以合スルヲハ、外ノコトヲスルヤウニ思ヒ、ツイニハ、歌ヲモ樂ヲモ、同調ニシテ、合セケルヨリ、琴ニモ奏調アルナリ。

奏調ノトキハ、宮絃平調、商絃下無、角絃黃鐘、徵絃般涉、羽絃上無、文絃平調、武絃下無ニテ、黃・平・般・下・上コレヲ正宮調ト云テ、今ノ黃鐘調也。角絃ヲ一律下テ、鳴鐘ニスレハ、平・般・下・上・鳴コレヲ緩角調ト云テ、今ノ平調ナリ。其上ヲ又、宮絃ヲ一律下テ、断金ニスレハ、般・下・上・鳴・断是ヲ緩宮調ト云テ、今ノ般涉調ナリ。正宮調ノ羽絃、一律上テ、一越ニスレハ、一・黃・平・般・下是ヲ繫羽調ト云テ、今ノ一越調ナリ。其上ヲ又商絃ヲ一律上テ双調ニスレハ、双・一・黃・平・般、是ヲ清商調ト云テ、今ノ双調ナリ。カク古ハ、歌調、奏調分レタルヲ、後ニハ歌調ヲモ、樂ニ用ヒ、奏調ヲモ、歌ニ用タルヨリ、渡物ナト云コト出来タルナリ。唐朝ニ至リテ、律ニ位メリテ、双調ヲ黃鐘ニシタリ。コノ調、又琴ニノコリテ、黃鐘ヲ徵絃ニシテ、調ヲ立タル一流アリ。コノ時、宮絃ニ越、商絃平調、角絃双調、徵絃黃鐘、羽絃般涉也。今ノ世ニ、一越ヲ黃鐘ニシテ、十二調子ヲ十二律ニ配当シタルハ、コノ調ヨリ起レリ。又黃鐘ノ青海波ヲ、双調ニ渡シタルモ、

六朝ト唐トノ律ノ相違ヨリ起リテ、異国ヨリ傳来スル譜ノ兩度ガ、一樣ニ替

リタルナリト知ルヘン。吾邦ハ、古ヨリ習來リタル音ヲ、正シク傳ヘテ失ハス。異國ハ周隋唐朝ヨリ、以後世々ニ律ヲ改メテ、律變シタルユヘ、カクノコトキ相違アルコト也。今ノ世ニ、断金切ト云、十二律ノアルモ、宋ノ徽宗皇帝ノ大晟樂ノ律ハ、鸞磬ヲ黃鐘ニセルユヘ、断金ノ音ヲ一越ニシタルカ、異国ヨリ傳來セル律管ヲ模タルナリト思ハル。右ニ云コトク、琴ノ調ニ、三流アリトイヘ共、最初ニシルシタル黃シキヲ、宮絃ニシタル調、琴ノ本調ナリ。琴ハ歌ノ声ナルユヘ、人ノ口中ノ音ヨリシテ、五調ノ高下ヲコレルナリ。大抵人ノ口中ノ音二十律ヲ出ス。何レノ調ニテモ、宮ヲ最濁音トシテ、商ハ宮ヨリカリ、角ハ中音ニテ徵ハ角ヨリカリ、羽ハ最清音也。今世ニ譜ヲウタフ音ハ、何レノ調ヲモ、黃鐘調ニウタイタルナリ。歌ノ音ハシカルヘカラス。十二律ノ上ニ清黃鐘・清大呂・清大簇・清夾鐘ヲ加テ編鐘編磬ヲ、此十六律ノ數ニテ、十六枚ニシタルモ、コノ道理ナリ。



サレ共、奏調ノコトモ不知シテ、叶ハサルコト也。『幽蘭』ノ譜ヲ碣石調アルヲ、今ノ乞食調ノコト也ト考ヘタルモ、奏調ヲ合セミニレハ明カナリ。故今、奏調ノ五調ノ図ヲ左ニ出スナリ。『幽蘭譜』ノ抄ニモ、縵角調ノ奏調ヲ朱ニテ、カタハラニシルシオクナリ。

正宮調、スナハチ黄鐘調ナリ。

縵角調、スナハチ平調ナリ。

下平上受鳬
鳬下斷上
黃雙平越
鸞勝斷上
受黃下平
上受上勝
下斷上勝
下平上勝
鳬下斷上
上受上鳬
下平上受
下平上受

清商調、スナハチ双調ナリ。

ナルコト、甚シキ也。

指ノ名ノ事

双平越妥黄双平敏
黄下平上妥黄下坤
鸞双勝越神鸞双升
妥鳬下断上妥鳬升
神黄双平越神黄十
越妥黄下平越妥九
平上妥鳬下平上八
双平_越妥黄双平七
妥鳬下断上妥鳬六
越妥黄下平越妥五
双平越妥黄双平四
黄下平上妥黄下三
越妥黄下平越妥二
双平越妥黄双平一

右指法ノ事

三聲ノ事
琴ニ、三ノ声ト云コトアリ。散声・実声・泛声ノ三ツナリ。散声ト云ハ、散
絃ノ声ナリ。実声ト云ハ、徽ヲ按テ出ル声也。泛声ト云ハ、左手ヲ琴面マテ
オシツケス、只、絃ヲ打ツナリ。右手ハ打ツヒトシク使フ也。其声、微細

三聲ノ事

ルモ是也。食指ニテ、手前ノ絃ヲツカキテ、中指ニテ疾半抉ヲスルヲ
ノ手ト云。ツバキテ輪ノ手ノ如ク、イク度モスルヲ、相接觸ト云。拘ノ手ヲ、
マツ、中指ニテ手前ノ絃ヲカキテ、次ニ、無名指ニテ向ノ絃ヲカクヲ、間拘
ト云。間句共カク。明朝ニテハ、大間句小間句ト云コトアレ共、古ハナキコ
トナリ。二度スルヲ、復間句ト云。復間句ノ間ニ半抉ノ如スルヲ、逆間句ト
云。是皆拘ノ手ヨリ出タル也。無名指ニテ、手前ノ絃ヲ向ヘハネテ、又、向

ノ絃ヲ向へハネ、中指ニテ、又、ソノ如ク二絃ヲ、二度ニハネ、大指ニテ、手前ノ絃ノ音ヲトムルヲ、却轉ト云。コレハ、挑ノ手ヨリ出タル手ナリ。無名指ニテ、手前ノ絃ヲカキテ、中指、向ノ絃ヲ打チ、其次ニ、中指ニテ、手前ノ絃ヲカキ、無名指ニテ、向ノ絃ヲ打ツ。是ヲ轉指ト云。是、拘ト打トヲ合セタル手也。宮絃ヲ打テ、次ニ微絃ニテモ、角絃ニテモ、案手ニテ打チ、文絃ヲハヌルヲ、度絃ト云。商・羽・武ニテモスルナリ。三絃トモニ同律ノ音ヲ出スナリ。食指ニテ、一絃ヲ挑打挑ト三度ナラスト、三璣ト云。マツ打テ、少シ間ヲオキテ、三璣ノ手ヲスルヲ打璣ト云。ハシメニ打ノ手ヲセス、挑打挑打ト幾ヘンモスルヲ、長璣ト云。コノ璣ノ手ヲスル時ハ、大指ノカシラニテ食指ヲウケテスル手ナリ。是等ハ打ト挑トヲ合セタル手ナリ。一絃ヲ食指ニテカキ、中指ニテカキ、無名指ニテ二度ハヌルヲ、発刺ト云。イカニモ急ニスルコトナリ。二度カキテ、一度ハヌルヲ、節発刺ト云。拘挑^{拘挑ノ}、拘挑ト四度ナラス手ノ三度目ヲヌキタルモノユヘ、ハツミアリテ聞エルユヘ、節発刺ト云。『源氏物語』ニ五六ノハラトイヘルハ、五六ノ微ニテコノ手ヲスルコトナリ。琴、世ニ廃レタルユヘ、コノハラト云コトヲ知ラズシテ、『源氏』ノ抄物ニ、或ハ五六ノバチト云、或ハ、破等トカキタルハ誤ナリ。ツム手ニ少シ遅速アルヲ、齟ト云。前後アル意ニテ、前後齟共云。間^{二三}絃ヲオキテスルヲ、齟三ト云。二絃ヲ隔ルヲ、齟四ト云。四絃隔ルヲ齟六ト云。二絃トモニ同律也。右手ハ、大抵、此通リナリ。

左指法ノ事

左ノ手ハ案手ナリ。律ヲ考ヘテ、徽ノ通リヲ案也。徽ノ間ヲモ案ナリ。大抵、無名指ノ外ノ方ノ爪際ニテ案ナリ。中指ニテモスル。無名指・中指トモニ、手ヲ少シ仰クルユヘ、仰案ト云。大指ニテ案時ハ、手ヲウツムケテ、大指ノ外ノ爪際ニテ案ユヘ、コレヲ覆案ト云。或ハ、仰ノケ、或ハ、ウツムケルコトハ、末ノ徽ヲオスニハ仰ケテ、無名指ヲ用ヒ、右ノ徽ヲオスニハウツムケテ、大指ヲ用ユ。ヒツキヤウ、手ノウツリノヨキヤウニスルコトナリ。泛ト云ハ、絃ヲ琴面マテオシツケス、カロクアタリテ、泛声ヲ出ス時ノコトナリ。コレモ案手ノ如ク、仰汎、覆泛アリ。サテ案手ヲシテ、右ノ手ヲ使ヒテ、音

ヲ発スル後、ソノ餘音ヲシメラス時ハ、左ヘ下ケ、カラス時ハ右ノ方ヘ上ルナリ。上ルニ、抑上・蹙上ノニツアリ。ユルヤカニスルヲ抑上ト云。急ニコキ上ルヲ蹙上ト云。蹴上トカキタルモ同シコト也。『源氏』ナトニ由ノ手ト云ヘルモ、ヨクノ反ユニテ、抑ノ手ト云コトヲ、ユノ手ト云ナルヘシ。左ノ方ヘサクルヲ、將ト云。案手ヲハナス時、搘ノ手ト、末ノ手トアリ。搘ノ手ハ左ノ大指ニテ絃ヲカキテ、カクト一所ニ案手ヲハナス也。末ノ手ハ案ノ手ヲ右ヘ向ケテ、急ニ取テ音ヲ出ス也。抹ノ字ヲモカクナリ。掩ノテト云ハ左ノ指ニテ絃ヲ打ナリ。吟ノ手ト云ハ、案タル指ヲスコシ動カシテ、音ヲ色ヲツケ、ウナルヤウニスルナリ。臚ノ手ト云ハ、案タル指ヲ、徽ノ外ヘ出シ、イカクノ如シ。

譜ノ文字ノ事

隋ノ僧馮智弁カ作レル譜ノ文字、梵字ノ形ノ如シ。又曾柔カ作レル譜ハ、字ヲヨセテ作リタルモノナリ。タトヘハ一絃ノ散絃ニテ、拘ノ手ヲスレ、「芍」六ノ絃ヲ散絃ニテ挑ノ手ヲスレハ、「茲」、三弦ヲ大指ニテ、九ノ徽ヲ案テ、拘ノ手ヲスレハ「鬱」、ナトト作リタルナリ。明朝ヨリ渡ル琴譜、皆コノ文字ナリ。琴譜ノ初二、何レニモ例ヲ出セリ。

琴ノ廃レタル故ノ事

琴ノ廃レタルイハレ、大カイ三ツアリ。一二ハ、凡、樂ヲ覚ユルニハ譜ト云モノヲ作リテ、其譜ヲ覚ユレハ、手ハ皆譜ニコモリテアルナリ。笙ハ乞一工凡乙^{二五}下十行美比ノ十字。笛ハチ三上タ中六下口ノ八字。簫築モ八字。琵琶^{武角イ}二十字ニアマル音ハナキニ、琴ハ一絃ニ十二律、三重ツ^{アリテ}、三十六ナリ。七絃ヲ合セテ、一百五十二、七絃ノ散声ヲ加ヘテ、二百五十九。コレニ又、泛声二百五十二合テ、五百十一ノ音アリ。其上ニ、右手左手ニサマ^ナノコトアリ。コレヲ一一ニ譜ニ作リテ、ウタヒ覚ヘントセンニハ、文字ノ数モ足ルマシケレハ、琴ノ手ヲソラニ覚ヘンヤウナシ。是第一ノ難義ナリ。二

ニハ古ノ人ハ、心ユキ風雅ナレハ、六八ノ和ヲ面白キコトニ思ヒシニ、世ヲトロウルニ從ヒテ、人ノ心迫切残露ニナリユクニヨリテ、同調ノシカト合タルヲノミ、賞玩シテ、琴ノ調ヲ奏調ニナホシテ、歌ヲモ樂ヲモ、同調ヲ用ユルユヘ、琴絃ヲ細ク、ユルクスルニヨリテ、他絃ニ遇テモ、其音ヲ奪ハル。マシテ、管ナトニ遇テハ、影モナクナリユク。唐ノ高宗皇帝ノ時、琴靡リユキシニヨリテ、呂才ト云人ニ、勅シテ再興セシメ玉ヒタルニ、玄宗皇帝ハ、琴ヲコトノホカニ嫌ヒ玉ヒテ、羯鼓ヲ以テ、琴ノ穢レヲ解ントノ玉ヒシコトモアル也。異国ニモ、コレヨリ後ハ、大カタハ隱者ノ玩モノ、ヨウモ、明朝ノ書ナトニハ云テ、宗廟ノ樂ニハ儀式ハカリニ、琴ヲ用タルトミヘタリ。是又琴ノ廢ル、イハレナリ。三ニハ、琴ハ歌トツル、モノニシテ、シカモ譜ヲ作ルヘキヤウナケレハ、歌ノフシニツレテ彈覚タルヲ、世ノ風、卑クナリテ、サマ／＼ノ新シキ歌ヒモノ出来レハ、古ノ樂歌ハスアリユキ、催馬樂、風俗ノ類ヒモ、今ノ世ニハ、大形タヘタルヤウナリ。サレハ、琴モ歌ニツレテ、絶タルナルヘシ。今、琴ヲ再興セント思ヒ玉ヘラン人ハ、幸ニ残ル「幽蘭」ノ譜ニ、イカヤウトモ、ウタヒモノヲ付テ、琴ノ手ヲヨクヒキ覺ヘ、琴ノ律ニ通貫シ、扱・箏・筆箥ニテ、「幽蘭」ノ曲ヲ奏シタルコト、異國ノ書ニ見ヘタレハ、歌ト樂トノ合セカタヲ工夫シテ、箏・筆箥、其外ノ樂器ニモ「幽蘭」ノ曲ヲトリタテ、見タランニハ、オノツカラ、ヒキカタ、合カタ具ハリテ、何レノ樂ニモ、琴ハヒカレンモノナリ。茂卿、東ニ生レテ、足跡閩西ニ及ハネハ、堂上樂家ノ秘伝ヲモ知ラス。僅ニ、ヒツツ、フタツ習ヒ聞タル樂ノワサニ便リテ、異國ノ書ヲ味フレハ、愚者ノ一得トモ、己カ心ニハ思ヘレ共、違タル事モ多カルヘシ。サレ共、世中ニ、揚州ノ鶴トヤラン云コトノ難クテ、樂ニ達セル人ハ、文字ニ疎ク、文字ニ深キ者ハ、樂ヲ好マス、好メトモ学流ニ違アリテ、末ノ世ノ説ニ惑ヒ、古ニ復ルコトナケレハニヤ、今太平百年ニ及テ、諸ノ道奥レ共、琴ノコトハ沙汰スル人ノナキカ悲シクテ、違タルコト多クトモ、書オキタランニハ、志アル人ノ階梯共ナレカシト、思フハカリニ、粗増ヲ錄シテ、伯氏ノ許ニ贈ルナリケリ。

享保七年壬寅四月二十八日

物部茂卿

品絃ト云コトアリ。琴ノ調ヘヤウナリ。琴ヲ弾スル初ニ、必スルコト也。箏ノ搔合爪調ノルイ也。笛ノ品玄モ、元來、琴ノ品絃ヲ写シタルナルヘシ。笛ヨリ写タラバ、古ノ琴ノ品絃モ知ラルヘキナリ。コ、ニシルセルハ、明朝ノ琴家ニ傳リタル品絃ナリ。マツ武絃ノ律ヲ般涉ニ定メ置テ、外ノ絃ハオノツカラコレヨリ生スルナリ。散¹挑武²、大九勾³微⁴、散¹挑文⁵、名十勾⁶微⁷、散¹挑羽⁸、大九打⁹角¹⁰、散¹挑商¹¹、散¹挑徵¹²、大九打¹³宮¹⁴、散¹挑角¹⁵、中十勾¹⁶宮¹⁷、散¹挑徵¹⁸、名十打¹⁹商²⁰、散¹挑羽²¹、名十一打²²角²³、散¹挑文²⁴、大九勾²⁵微²⁶、大九打²⁷角²⁸、散¹挑羽²⁹、大九打³⁰商³¹、散¹挑徵³²、大九打³³宮³⁴、散¹挑角³⁵、中十勾³⁶宮³⁷、散¹挑徵³⁸、名十打³⁹商⁴⁰、散¹挑羽⁴¹、名十一打⁴²角⁴³、散¹挑文⁴⁴、名十勾⁴⁵微⁴⁶、散¹挑武⁴⁷、名十打⁴⁸羽⁴⁹是也。「散¹挑武⁵⁰、大九勾⁵¹微⁵²」トハ武ノ散絃ヲ挑シテ、大指ニテ九ノ徽ヲ案テ、微絃ヲ勾シテ合スルトキ、微絃ノ九徽ト、武絃ト同声ナレハ、微絃ノ散声平調ニ出来ルナリ。「散¹挑文⁵³、名十勾⁵⁴微⁵⁵」トハ文ノ散絃ヲ挑シテ、無名指ニテ十ノ徽ヲ案テ、微絃ヲ勾シテ合スルトキ、文ノ散絃ト微絃ト、ヨク合ヘハ、文絃ノ黄シキ出来ルナリ。「散¹挑武⁵⁶、十勾⁵⁷羽⁵⁸」トハ武ノ散絃ヲ挑シテ、無名指ニテ十徽ヲ案テ羽絃ヲ勾シテ、羽絃ノ声、武絃ニ合ヘハ羽絃ノ下無出来ルナリ。「散¹挑文⁵⁹、大九打角⁶⁰」トハ文ノ散絃ヲ挑シテ、大指ニテ九徽ヲ案テ、角絃ヲ打シテ、角絃ノ声、文絃ニ合フ時、角絃ノ一越出来ル也。「散¹挑羽⁶¹、大九打商⁶²」トハ羽ノ散絃ヲ挑シ、大指ニテ九徽ヲ案テ、商絃ヲ打シテ合スル時、商絃ノ声、羽絃ニ合ヘハ、商絃ノ般渉出来ル也。「散¹挑徵⁶³、大九打宮⁶⁴」トハ微ノ散絃ヲ挑シテ、大指ニテ九徽ヲ案テ、宮絃ヲ打シテ、具ルニ、宮絃ノ声微絃ニ合時ハ、宮絃ノ黃鐘出来ル也。コヽマテニテ、七絃ノ調子、悉出来ル也。コレヨリ末ハ、其上ヲ又念ヲ入レテ、今一返アハセミルナリ。「散¹挑羽⁶⁵」トハ角絃ノ散絃ヲ挑シテ、大指ニテ十徽ヲ案テ、宮絃ヲ勾シテ合セミル也。「散¹挑徵⁶⁶、名十打⁶⁷商⁶⁸」トハ、微ノ散絃ヲ挑シテ、無名指ニテ十徽ヲ案シテ商絃ヲ打シテ合セミルナリ。「散¹挑羽⁶⁹、名十一打⁷⁰角⁷¹」トハ、羽ノ散絃ヲ挑シテ、無名指ニテ十一徽ヲ案テ角絃ヲ打合セミル也。「散¹挑文⁷²、名十打⁷³徵⁷⁴」トハ、文ノ散絃ヲ挑シテ、無名指ニテ徵絃ノ十徽ヲ案テ打シテ合セミル也。「散¹挑武⁷⁵、名十打⁷⁶羽⁷⁷」トハ、武ノ散絃ヲ挑シテ、無名指ニタノコトク品絃ヲスレハ、黃鐘角絃ノ調ニナルナリ。武絃ヲ平調ニシテオケハ、黃鐘徵絃ノ調ニナル、何レモ、正宮調ナリ。

又操縵ト云コトアリ。是モ品絃ノ類也。是ニ初和・大和・小和トテ三段アリ。
初和ヲ宮商定位ト云。散^{シテ}挑武^{シテ}、大九勾^スレ徵^{シテ}、散^{シテ}挑文^{シテ}、名十勾^{レ徵}、散^{シテ}挑武^{シテ}。

(注) 吉川良和「物部茂卿琴学初探」(『東洋文化研究所紀要』第92冊・東京大学東洋文化研究所編・一九八三)に詳しい。

名十勾レ徵、散ハ挑文、散ハ勾徵、散ハ挑武、名十勾レ羽、散ハ挑武、散ハ勾
武、名十勾ハ羽、散ハ挑文、名十勾ハ徵、散ハ挑文、散ハ勾徵、散ハ挑文、
羽、散ハ挑文、名十勾レ徵、散ハ挑武、大九勾レ徵、散ハ挑武、散ハ勾徵、
散ハ挑羽、名十一勾レ角、散ハ挑文、大九勾レ角、散ハ挑文、散ハ勾角、散ハ

〔付記〕本稿は平成十五年度、東京成徳短期大学の特別研究費による「雅楽の変遷の研究」の成果の一部である。

挑徵、名十勾レ商、散^二挑羽、大九勾レ商、散^二挑徵、名十勾レ商、散^二挑羽、大九勾レ商、散^二挑角、散^二挑羽、散^二勾商、散^二挑角、中十勾レ宮、散^二挑徵、大九勾レ宮、散^二挑羽、大九勾レ商、散^二挑角、中十勾レ宮、散^二挑徵、大九勾レ宮、散^二挑羽、大九勾レ商、散^二挑角、中十勾レ宮、散^二挑徵、大九勾レ宮、散^二挑羽、大九勾レ商、散^二挑文、大九勾レ角、中十勾レ宮、散^二挑徵、大九勾レ宮、散^二挑羽、大九勾レ商、散^二挑文、大九勾レ角、散^二挑武、大九勾レ徵、是ナリ。品絃ノ格ニテ、前ノ正宮調ノ三徽定位ノ図ニテ、考合スル時ハ、明カナリ。二段目ヲ大和ト云。是ヲハ、テ挑スルコトナリ。食七泛勾レ商トハ、食指ニテ商絃ノ七徽ヲ打テ、泛ノ手君臣合德ト云。散^二擊武、食七勾レ商、散^二擊文、中七勾レ宮、散^二擊武、食ヲシテ右手ニテ勾スルナリ。餘ハ倣レ此三段目小和ナリ。是ヲ律呂和平トイフ。文時泛挑^レ武名九泛勾^レ徵、大九泛挑^シ文、名十泛勾^スレ徵、大九泛挑^シ武、名十泛勾^スレ羽、大九泛挑^シ文、名十泛勾^スレ徵、大九泛挑徵、名十泛勾^スレ商、大九泛挑^シ角、名十泛勾^スレ宮、散^二挑角、中十勾^レ宮、散^二挑徵、大九勾^レ宮、散^二挑羽、大九勾^レ商、散^二挑文、大九勾^レ角、中十勾^レ宮、散^二挑徵、大九勾^レ宮、散^二挑羽、大九勾^レ商、散^二挑武、大九勾^ス徵、是ナリ。泛トハ、皆泛ノ手ニテ調子ヲ合スルナリ。

右一本、矢部雀峯翁藏本ト大森道見藏本トヲ借得テ、以、校訂スルニ、相共二誤写失失アリ。因テ、彼此相照シテ、以テ謄寫した。

嘉永己酉十二月

